JACLaP NEWS

JAPANESE ASSOCIATION OF CLINICAL LABORATORY PHYSICIANS

[Homepage]http://www.jaclap.org

No.130/2017. 3

2017 年行事予定

5月21日(日)	第 86 回教育セミナー
6月17日(土)	第 2 回全国幹事会
7月21日(金)	第 34 回臨床検査振興セミナー
9月30日(土)	第 2 回常任幹事会
11 月 11 日(土)	臨床検査の日 日本臨床衛生検査技師会
11月16日(木) ～19日(日)	第 64 回日本臨床検査医学会学術集会、平成 29 年度第 3 回全国幹事会、第 51 回日本臨床検査専門医会総会・講演会
12月9日(土)	第 3 回常任幹事会

【目次】

p.1	巻頭言：改めて感じること
p.2	事務局からのお知らせ、平成 29 年度第 1 回(第 50 回)総会報告、第 7 回生涯教育講演会報告
p.3	第 27 回春季大会報告、平成 29 年度第 86 回教育セミナーのお知らせ、平成 29 年度第 34 回臨床検査振興セミナーのお知らせ、「全国検査と健康展」の臨床検査専門医認定・更新制度における認定のお知らせ、日本臨床検査専門医会ネットワーク活用のお願い、臨床検査振興協議会ノベルティグッズのご案内、平成 29 年度行事予定、平成 29 年度会費振り込みのお願い、住所変更所属変更に伴う事務局への通知について
p.4	会員の声：臨床検査専門医になるまでの道、臨床検査専門医認定資格をとる意義－地方病院検査部長である私の場合－
p.5	会員の声：臨床検査専門医としての抱負、臨床検査専門医になって
p.6	臨床検査専門医会ネットワークの使い方、編集後記

ログインされましたか？
臨床検査専門医会ネットワーク

会員専用のQ&Aコーナーなどがあります。
IDやパスワードがわからない場合は、
事務局までお問い合わせください。
TEL: 03-3864-0804
E-mail: senmon-i@jaclp.org

HPアドレス（QRコードも対応）
http://www.jaclap.org/qa/login

巻　頭　言

日本臨床検査専門医会教育研修委員会委員長
聖隷浜松病院臨床検査科　米川　修

改めて感じること

「将来を樹てないと、民族はなくなる」。

司馬遼太郎氏の「オランダ紀行」の一節からの引用。オランダ人は延々たる堤防を築き海岸線を遮断し、巨大な人造湖であるアイセル湖を作った。その時の苦労を忘れずの意を込めレリーフとして刻んだものが冒頭の警句となる。「世界は神が創りし給うが、オランダは、オランダ人が創った」との言葉が彼の国にはある。かく言う私は、文部省在外研究員として 2 年近くこの国で学んだ。

人造湖を作るに当たっては入念な準備がなされており、確か委員会の責任者は有名なローレンツ変換で知られるノーベル物理学賞受賞者であるヘンドリック・ローレンツその人が務めたはずである。

資源のない国の住人としては彼の国と人々に感心し、学ぶことが多い。例えば、狭い国土で人口も少ないにもかかわらず世界的に見ても大学のランキングが高いとの報告がある。また、医療関係では MRSA の発症率が極端に少ないらしい。向こうでの生活を経験するとさもありなんと納得してしまう。

十分準備をすることの必要性。議論を重ねることの必然性。各方面でこの連鎖が根付いている。研究所でのカンファでも実感できた。若手のプレゼンはオランダ語だが OHP による視覚情報と専門が近いこともあり、内容が分かることがある。かなり容赦のない意見がとぶが研究のはじめの段階での討論らしく、問題点も絞り込め、取り組むに値するかも吟味されている印象を受けた。これは若手により良い将来を見通す道筋を示すものと思えた。

組織は生物と同じであると思う。「個の保存」、「種の保存」、加えて「特異性の発揮」が必須である。検査医(学)を維持するだけでなく後進の育成を図り、検査医学の独自性を外部に示すことが求められる。現状におさまっていると「未来を樹てないと、検査はなくなる」という事態を招きかねない。

司馬氏の文章は、「将来。つねに将来を。いま私どもが立っている現在も、かつてのひとびとが将来を思って営んでくれたおかげなのである」と続いている。

第 64 回日本臨床検査医学会共催シンポジウムでは「10 年後に臨床検査室は今のままでいられるのかー臨床検査の多様化とコスト削減の圧力ー」を信州大学の本田先生が取り上げる予定である。シンポジウム以前に各人が将来を見据えて十分な準備と周囲との議論と理解を得ることが必要なはずである。我々が検査医を標榜し、臨床検査医学が存在するのも先達の営々たる努力の賜と言える。この流れを止めてはならない。

はて、個人レベルですべきことは？何が出来、何をすべきか？まさしく手探り、暗中模索の状態である。幸い、当院では複数の研修医が臨床検査科を選択科とし、総合診療内科では週に 1 時間検査の勉強に研修医を派遣してくれてはいる。これが撒き餌となるか食い逃げで終るかは分からない。他力本願かも知れないが、少しでも若いうちに検査医学の有用性を身につけ臨床に応用して頂ければ幸いである。新臨床専門医制度の基幹施設にはなっているが当院に研修医が来るのが早いか？私の定年が先か？体力の続く限り居座るつもりではいるが、はてさて、どうしたもんじゃろのう！？

事務局だより

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2017年3月7日現在 会員数758名、専門医609名

《新入会員》（敬称略）

中川　俊正：淀川キリスト教病院臨床検査科
黒沢　幸嗣：群馬大学医学部附属病院検査部
酒井　康弘：福井大学医学部病因病態医学講座
　　腫瘍病理学分野
遠藤　康実：日本医科大学附属病院臨床検査部
猪俣　晃一：独立行政法人 国立病院機構
　　さいがた医療センター臨床検査科

《所属・その他変更》（敬称略）

川口　将也：旧　医療法人財団俊陽会 古川病院
　　新　神奈川リハビリテーション病院
中村　文彦：旧　天理よろづ相談所病院臨床検査部
　　新　奈良県総合医療センター中央臨床検査部
　　部長
折笠　英紀：旧　東京都保健医療公社 東部地域病院検査科
　　新　川崎市立川崎病院検査科 担当部長
宮居　弘輔：旧　陸上自衛隊部隊医学実験隊
　　新　自衛隊中央病院診療技術部病理課
鈴木　隆史：旧　東京医科大学臨床検査医学講座
　　新　医療法人財団 荻窪病院血液科
田部　陽子：旧　順天堂大学医学部臨床検査医学講座
　　新　順天堂大学大学院医学研究科
　　臨床病態検査医学(臨床検査医学講座)特任教授
　　次世代血液検査医学講座 特任教授
野村　文夫：旧　千葉大学大学院分子病態解析学
　　新　千葉大学医学部附属病院 マススペクトロメ
　　トリー検査診断学 特任教授

《退会会員》（敬称略）

小野　順子：医療法人財団華林会 村上華林堂病院
貝森　光大：
川名　林治：
小西　奎子：
清水　道生：博慈会記念総合病院 病理診断センター
辻村　　亨：兵庫医科大学病理学
野島　孝之：金沢医科大学臨床病理学
馬場　尚志：国立がん研究センター中央病院
古田　　耕：神奈川県立がんセンター医療技術部
高橋　陽子：東京医科大学臨床検査医学分野

《訃　報》

小林　芳夫 先生　2016年12月21日ご逝去
片山　正一 先生　2017年2月27日ご家族よりご連絡

ご冥福をお祈り申し上げます。

《賛助会員入会》

株式会社テクノメディカ

【平成29年度第1回(第50回)総会報告】

第27回日本臨床検査専門医会春季大会時に平成29年度第一回総会が開催されました。

日　時：2017年2月25日
会　場：ホテルリゾーピア熱海「マーメイド」

平成28年度　決算報告

平成28年		項　目	予算額	決算額	予算と決算の差
収入	会費	会員会費	6,475,000	6,190,000	-285,000
		賛助会員会費・寄付金	4,000,000	3,700,000	-300,000
		小　計	10,475,000	9,890,000	-585,000
	その他	広告収入	200,000	420,430	220,430
		教育セミナー参加費	350,000	470,000	120,000
		生涯教育講演会参加費	100,000	172,000	72,000
		振興セミナー参加費	100,000	140,000	40,000
		利息	5,000	2,327	-2,673
		小　計	755,000	1,204,757	449,757
	入金合計		11,230,000	11,094,757	-135,243
支出	庶務経費	事務所維持費	1,700,000	1,723,582	23,582
		人件費	1,500,000	1,487,380	-12,620
		設備費	150,000	1,430	-148,570
		電話・FAX使用料	60,000	55,751	-4,249
		通信費(事務局)	170,000	150,051	-19,949
		事務局雑費	150,000	142,615	-7,385
		小計	3,730,000	3,560,809	-169,191
	事業経費	印刷代	2,000,000	1,568,755	-431,245
		要覧印刷代	550,000	551,880	1,880
		通信費	800,000	552,582	-247,418
		春季大会補助金	500,000	500,000	0
		臨床検査振興セミナー費	950,000	798,253	-151,747
		教育セミナー費	750,000	574,050	-175,950
		会議費	1,000,000	799,193	-200,807
		交通費	70,000	96,510	26,510
		宿泊費	20,000	32,000	12,000
		原稿料	100,000	0	-100,000
		専門医ﾈｯﾄﾜｰｸ開発費	864,000	858,060	-5,940
		HP維持費(広報HP含む)	170,000	170,838	838
		JCCLS会費	50,000	50,000	0
		WASPALM会費	60,000	51,692	-8,308
		臨床検査振興協議会	300,000	300,000	0
		内保連	200,000	200,000	0
		ISO/TC212第22回総会協賛金	0	30,000	30,000
		小計	8,384,000	7,133,813	-1,250,187
	出金合計		12,114,000	10,694,622	-1,419,378
収支決算				400,135	
前年度繰越金				18,137,984	
次年度繰越金				18,538,119	

総会議事に先立ち、平成29年度有功会員である吉田治義先生に登 勉 会長より有効会員証が授与されました。

審議事項

第一号議案：平成28年度決算について(別表)
第二号議案：平成29年度名誉会員・有功会員(追加)について
　名誉会員として上平憲 先生、有功会員として吉田カツ江先生が推薦されました。
第三号議案：名誉会員の年会費について
　平成30年度より名誉会員の年会費を免除とする。
第四号議案：平成29年度会長および監事選挙について
　平成29年度会長、監事選挙は7月10日公示、7月31日推薦・立候補〆切り、9月1日～19日投票
第五号議案：第29回(平成31年度)春季大会について
　大会長として横崎典哉 先生(広島大学病院検査部)が推薦されました。
第六号議案：第30回(平成32年度)春季大会について
　大会長として橋口照人 先生(鹿児島大学大学院)が推薦されました。

第一号～第六号議案はいずれも可決されました。

【第7回生涯教育講演会報告】

第7回生涯教育講演会は2017年2月24日(金)、ホテルリゾーピア熱海において開催されました。本年度は大西宏明 先生(杏林大学医学部臨床検査医学教室)に「採血合併症の予防と対応のポイント」を、堤 寛 先生(藤田保健衛生大学医学部病理学)に「病理診断部門におけるセイフティーマネジメント」をそれぞれご講演いただきました。90名を越える先生方に参加いただき、盛況のうちに終了しました。

【第 27 回春季大会報告】

第 27 回日本臨床検査専門医会春季大会は、国際医療福祉大学熱海病院検査部 〆谷直人 先生を大会長として 2017 年 2 月 24 日～25 日、ホテルリゾーピア熱海を会場として開催されました。24 日には「臨床検査室の精度管理の仕方」についての特別講演、25 日にはパネルディスカッション「望まれる臨床検査専門医とは」、ワークショップ「理事長(会長)を務める臨床検査専門医が語るアイデンティティーとハーモニー」、ランチョンセミナーが行われ、130 名を越える参加者があり活発な討議が行われました。また、24 日夜に開催された懇親会も盛会でした。

なお来年度(平成 30 年度)第 28 回春季大会は大会長を本田孝行 先生(信州大学医学部病態解析診断学)にお務めいただき、「臨床検査医の未来への戦略」をテーマとして 2018 年 5 月 11 日(金)～12 日(土)、信州大学医学部付属病院大会議場(長野県松本市)で開催予定です。

【平成 29 年度第 86 回教育セミナーのお知らせ】

平成 29 年度日本臨床検査専門医会第 86 回教育セミナーは下記の要領で開催されます。本セミナーの目的は、臨床検査専門医に必要な知識・技術をこれから習得していこうとする方へのガイドを提供するものです。会場の都合上、今年度臨床検査専門医認定試験受験予定の方(それ以外は、受験資格を有し今後受験予定の方)を先着順に受付します。詳細は専門医会ホームページをご参照ください。

日　時 : 2017 年 5 月 21 日(日) 9 : 00～17 : 00(予定)
会　場 : 帝京大学霞ヶ関キャンパス(東京都千代田区)
参加費 : 10,000 円
定　員 : 40 名

【平成 29 年度第 34 回臨床検査振興セミナーのお知らせ】

本年度の臨床検査振興セミナーは下記の日程で開催を予定しております。プログラムについては決定し次第専門医会 HP に掲載いたします。多数の会員の参加をお願いします。

日　時 : 2017 年 7 月 21 日(金)　14 : 00～17 : 00
(終了後懇親会を予定)
会　場 : 東京ガーデンパレス(東京都文京区)

【「全国検査と健康展」の臨床検査専門医認定・更新制度における認定のお知らせ】

会員の先生方にご協力をいただいております、日本臨床衛生検査技師会主催「全国検査と健康展」での検査相談について、日本臨床検査医学会新専門医制度更新資格審査委員会の審査を受け、平成 28 年度以降の参加について、次のように認定されましたので、この旨お知らせいたします。

臨床検査専門医更新基準での更新単位
ⅳ)学術業績および診療以外の活動実績(0～10 単位)
・地域施設等での臨床検査部門の査察や指導、啓発活動を行った場合、1 単位(年に 1 回)
更新の際には、学術業績・診療以外の活動実績(別表 4)に記載のうえ、参加証明として、日本臨床検査専門医会発行の参加証を添付してください。

平成 28 年度から参加頂いた先生方には参加証を発行しております。

【日本臨床検査専門医会ネットワーク活用のお願い】

日本臨床検査専門医会ネットワークは 2016 年 3 月より稼働いたしましたが、より多くの会員の皆様にご活用いただくため、ログインメールアドレスおよびパスワードを会員各位に文書で再送付しております。是非ご活用ください。

【臨床検査振興協議会ノベルティグッズのご案内】

本会が会員として参加する臨床検査振興協議会では「りんしょう犬さん」をモチーフとしたクリアファイル、ステッカーシール等のノベルティグッズを製作しております。本会会員の先生方には教育、啓発、宣伝活動等にこれらのグッズを無料でご利用いただけますので、本会事務局までご請求ください。

【平成 29 年度行事予定】

平成 29 年度 日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第 JACLaP WIRE、JACLaP NEWS でお知らせします。その都度ご確認ください。

平成 29 年
5 月 21 日(日)　第 86 回教育セミナー
(帝京大学・霞ヶ関キャンパス)
6 月 17 日(土)　第 2 回全国幹事会
(日本臨床検査医学会事務所)
7 月 21 日(金)　第 34 回臨床検査振興セミナー
(東京ガーデンパレス)
9 月 30 日(土)　第 2 回常任幹事会
(日本臨床検査専門医会事務局)
11 月 11 日(土)　臨床検査の日
日本臨床衛生検査技師会：
「全国検査と健康展」共催予定
11 月 16 日(木)～11 月 19 日(日)
第 64 回日本臨床検査医学会学術集会
(国立京都国際会館)
平成 29 年度第 3 回全国幹事会
第 51 回日本臨床検査専門医会総会・講演会
12 月 9 日(土)　第 3 回常任幹事会(新旧合同)
(日本臨床検査医学会事務所)

【平成 29 年度会費振り込みのお願い】

平成 29 年度の会費振込用紙をお送りしましたので振込をお願い致します。未納分のある会員の方々は合計額をお振込ください(納入状況は振込用紙に記載致します)。

なお、満 70 歳以上の正会員の年会費は、5,000 円です。

平成 29 年度年会費 : 10,000 円
(2017 年 1 月 1 日現在、70 歳以上の方 : 5,000 円)

郵便振込み口座 : 00100-3-20509
日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。過去 2 年間会費を滞納している先生には、Lab CP、JACLaP NEWS、要覧の発送を停止いたします。悪しからずご了承ください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、

住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。変更事項はホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

また、日本臨床検査専門医会ネットワークシステムでは会員情報を各自で編集可能ですが、変更した旨を事務局までメールでご連絡ください。

＜連絡先＞日本臨床検査専門医会 事務局
（水・土日祝祭日は休業日）
電話・FAX：03-3864-0804　アドレス：senmon-i@jaclp.org

【会員の声】

臨床検査専門医になるまでの道

平成 26 年度、臨床検査専門医に合格しました。私は、小児科、特に血液腫瘍の仕事をしてきました。一般小児科は、検査結果を緊急で知らなければいけない疾患が多く、診察の外来予約もできなければ、入院予約もほとんどない診療科です。私の時代の臨床研修は、直接希望した医局で行いました。子どもたちが元気になっていく姿をみたいと思い小児科医になりました。

広島大学小児科の研修医 1 年目は、毎日のように病棟で、小児がんの子どもたちの血液・尿、骨髄・髄液検査を行っていました。当時大学病院では、骨髄・髄液所見、尿沈渣、便潜血は、毎日の研修医の仕事で、病棟内に検査室がありました。夜間の緊急検査は自分自身で行っていました。化学療法で白血球数が下がってくると、患者さんの状態は悪く、担当の研修医は昼夜忙しい上に、顕微鏡下に白血球が見つからないため、顕微鏡の上で居眠りをしていました。小児科の病棟医は、診療以外に、採血等の処置、薬剤の溶解、時に点滴交換、家族の心配、学校のこと、相談支援も、緩和医療もすべて担当医の仕事で、多くのことを学びました。

その後の一般病院の研修は、地域の中核病院で、毎日が感染症との戦いで、当直帯は、髄液を採取後、検査室に自分で届け、グラム染色や細菌性髄膜炎迅速診断キットを使って検査技師さんと一緒に診断していました。川崎病では心エコーを、腸重積症には腹部エコーも緊急で自分自身で行います。心電図をとる赤ちゃんを昼寝の間に検査室に連れて行き、ベッドに移した瞬間に、あ～起きちゃったと検査技師さんと大笑いしました。小児科は、おそらく最も検査室が身近な診療科ではないかと思います。

埼玉県立小児医療センターの専門研修では、造血細胞移植を学びました。東京大学小児科での研究テーマは、小児がんの遺伝子解析で、国立がんセンター研究所で PCR-SSCP 法を習い、予後不良因子の探索をしていました。その後留学した米国ウィスコンシン大学では、臍帯血に遺伝子導入し、マウスに移植して解析する研究も行っていました。

帰国後、都立駒込病院で、小児の血液腫瘍と感染症中心の二次救急に携わっている頃、病気もしない睡眠不足に強い小児科医でしたが、体調を悪くして、第一線の小児血液腫瘍医を続けられなくなりました。これまで勉強してきたことを生かせる道は何かと、臨床検査と臨床遺伝の研修をはじめました。私にとっては、これまで臨床や研究で多くの先生方にご指導いただいたこと全てが、今の仕事につながっていた気がしています。

現在は、埼玉県立がんセンターで、血液内科の所属で、臨床検査管理医をしています。遺伝子診断が一般的になり、自動化され、新たな体液診断も始まろうとしています。併設されている AML1（PNAS 88、1991）発祥の臨床腫瘍研究所と、セミナー、抄読会、バイオバンクにも関わり、臨床と研究の橋渡しをしています。腫瘍診断・予防科には遺伝カウンセリング外来があり、遺伝性腫瘍に関しても勉強ができます。病理診断部門とも、共同研究を行っています。臨床検査管理医は、多くの部門に関わり、常に顔の見える位置にいることができる存在で、検査室とベッドサイド、検査室と研究所を結びつける仕事ができます。

将来の臨床検査部門は、精度管理は当然ながら、患者さんに説明ができる顔の見える検査技師をめざしており、その橋渡しになれたらと思っております。また小児中心に歩んだ道であっても、臨床医が検査室に期待すること、患者さんや家族が悩んでいること、笑顔で対面しなければ子どもは泣く等の経験は、医療の基本であり、成人のがんセンターでも十分役立っています。まだまだ診断がつかない病態がたくさんあります。私の関わってきた小児領域は、その検体の採取の難しさ、数の少なさから常に後回しでした。様々な検査を稀少がんの患者さんにも届けられるように努力していきたいと考えています。また当院にご見学ご希望の方がいらっしゃいましたら、いつでも大歓迎ですのでご連絡いただければと思います。

（埼玉県立がんセンター　川村眞智子）

臨床検査専門医認定資格をとる意義
－地方病院検査部長である私の場合－

はじめまして、平成 28 年度、第 33 回臨床検査専門医認定試験に合格し、ここで書く機会を与えて頂きました尾崎敬と申します。和歌山県南部に位置する紀南病院中央臨床検査部長として多忙な日々をおくっています。まずは臨床検査専門医認定試験に合格できて非常に嬉しい。何が嬉しいのかといえば、臨床検査部長として少し自信ができたからです。この少しの自信をつけるのに忙しい日々の中で時間を作り勉強した甲斐がありました。努力が報われるのは年齢に関係なく嬉しいものです。実感します。そして合格するまで励まして下さった方々に心より感謝します。

私の病院の中央臨床検査部には高い専門性を有する多くのスタッフがおり、勤務した当初は専門分野が異なると意志疎通がうまくいかず自信を無くすこともありました。私の場合隣に医師がいないためなにかと孤独になりがちでした。自信がない原因はわかっていました。2 つの問題があります。一つは私の専門分野（病理）以外の検査のことが理解できていない。もう一つは検査部内の人間関係のことが理解できていない。

以上の 2 つの問題は検査部長として勤務した以前の病院（和歌山県南東部にある新宮市の病院）でも経験しました。この以前の病院の経験から 2 つの問題を一度に解決する自信がなかったので、まずは私の専門分野（病理）以外の検査のことを理解するように努めました。以前勤務した（新宮市の）病院から大学に戻りしばらくして日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会に入り毎年の学会で多くのことを教えて頂きました。少しずつ臨床検査医学のことがわかるようになってきた頃、再び地方病院（現在の病院）の検査部長として勤務するようになりました。臨床検査の勉強は病院が変わっても継続しました、また検査部内の勉強会や行事に参加して各検査のことを少しでも理解できるように努めました。多くの方々の励ましと協力があってやっと合格した次第です。ちなみに今年の試験での輸血検査については検査部の勉強会でしつこく質問した甲斐があり試験に対応できたときは「やった」と思いました。

2 つ目の問題である検査部内の人間関係を理解することについては、大学にいたときは病理学教室にいた時も臨床検査医学教室にいた時もそれぞれに教授がいましたから、教授を中心とした人間関係が出来上がっていたので比較的楽でした。実際、教授は大変だったと思いますが。大学を離れ地方病院

の検査部長として勤務すると、部長といえども医師一人の場合が多く相談できる隣人がいないため困ることがあります。責任と仕事をスムーズにこなすために検査部スタッフとのコミュニケーションは必須で、このためには各検査のことを最低限知っておく必要があり今回の専門医試験合格は最低限のハードルを越えたと自覚できるものです。この自覚が少しの自信につながっていると思います。今後、さらに責任と仕事をスムーズにこなすための人間関係(つまりは信頼関係)を少しずつ築いていきたいと思います(現在進行形)。

そして、今後どんなに忙しくても学会や勉強会に参加して臨床検査医学の勉強を続けるつもりです。検査部の検査全部を理解できるとは今は思いません(以前はやれると考えていた)。それぞれの検査が時代とともに高い専門性と非常に深い内容をもっていることを知っているからです。私にとっては、このことを知るための試験勉強だったのかもしれません。実際に紀南病院の検査部は各科専門医との結びつきが強く、病理部のスタッフは病理医(私)と、血液・骨髄検査のスタッフは血液内科医と、超音波検査では循環器内科医や消化器外科医、細菌検査部のスタッフは感染症内科医(ICT)と協力することで患者に貢献しています。各科専門医と検査技師との結びつき(信頼関係)は自然なことです。ですから今の私ができることは検査部の隙間を埋めることかもしれません。この隙間を埋めることは時代とともに重要になりつつあるように思います。具体的には精度管理とかコンプライアンスとかISO 15189 とか名称で呼ばれていますが、これらに貢献できるのが他でもなく臨床検査専門医と私は思います。隙間を埋めることで検査部が絶えず安定して病院に、そして地域の方々に少しでも貢献できればいいと私は思います。大学病院とは異なる地方病院という限られた環境下で臨床検査専門医としての役割が今試されていると感じます。

今回試験に合格してよかったのは、意外にも以前よりも疑問点を自信をもってみんなに質問できるようになりました。自信をもって質問すると得ることも多いことに気がつきました。このことは私も気が付かなかったのです。私のような検査部長が時には嫌がられたり煙たがられたりすることもありますが、評価は病院と検査部のスタッフが何年か後に判断すると思います。

今回の合格が未来の私に、そのときの状況を少しでも前向きに考えるための推進力(自信)につながればいいと思います。最後になりましたが、ここに至るまでに、当院中央臨床検査部スタッフ、院長、そして院外の多くの方々にお世話になり、また助けて頂きました。この機会にお礼を申し上げたく思います。「ありがとうございました」。

(紀南病院中央臨床検査部長　尾崎　敬)

臨床検査専門医としての抱負

平成 28 年度専門医試験にて臨床検査専門医の一員とさせていただくことになりました慈恵医大附属病院中央検査部の小笠原洋治です。私は内科研修後血液内科医として働いておりましたが、恩師である前血液・腫瘍内科教授の小林正之先生が中央検査部長をされていたことや、現中央検査部長の海渡健先生も血液内科の先輩であることから 7 年前から血液内科との兼任で働いております。血液内科医としての診療と学生教育を行う一方で、中央検査部では血算・血液像・凝固検査・骨髄像・染色体検査・遺伝子検査など主に血液疾患関連検査異常についての評価、コメントを臨床検査技師のスタッフとともに行っています。また、中央検査部のスタッフと学会で発表して、その際にちょっとだけ観光して楽しい時間を過ごしたりもしております。

中央検査部の仕事を長らく兼務している中で、徐々に自身の専門性をより検査側にシフトしていきたいと考えるようになり、臨床検査医学講座主任教授の松浦知和先生にも背中を押されて専門医試験を受けることにしました。しかしご存知の通り臨床検査医学の範囲は、内科診断のすべてといっても過言ではないくらい広範囲ですし、主要な検査手技についても身につけている必要がありますので、試験を受けるに当たってはかなり不安もありました。試験は記述式がベースで、各分野で問われる設問に対して乏しい知識を絞り出してひたすら書くというこれまで受けた専門医試験のなかで最も過酷なものでしたが、今考えてみると臨床検査専門医がどうあるべきかという試験委員の先生方の熱い問いかけのように感じますし、その試験で専門医を名乗ることを許されたという嬉しさと、これからの自分のあり方に責任も感じています。

勤務している病院の状況によって検査専門医に求められる役割は違ってくると思いますし、若い時期から臨床検査医学を中心に広く学んでこられた先生方とは専門医としてのスタンスに違いがあるかもしれませんが、ここでは私自身が現在勤務している大学病院で働く専門医として何を目指そうとしているかについて述べたいと思います。大学病院では各科に専門医が揃っていますので、自分がすべての領域について深い知識を持ち、専門的なコメントをすることは現時点では困難と考えております。幸い当院には中央検査部を支える消化器・循環器・精神神経科専門の先生方もおられるので、まずはこれまで通り自分の専門とする血液領域でのコメントを行うことを基本として、より精度の高い診断法の確立や新規検査の開発など、守備範囲を広げるというよりは専門性をさらに高めることを目指したいと考えております。

近年米国では日本のような他国での医学教育の内容について一定の基準を満たさなければ米国内の教育と同等とは認定せず USMLE/ECFMG の受験資格が与えられなくなるという流れがあり、その基準をクリアするよう慈恵では臨床実習のウエイトを大幅に増やす改革を今年度からスタートしています。従来型の座学が減り、早い段階でベッドサイドへ移行していく中で、基礎と臨床の知識の連携や、症候と検査から病態を考えるプロセスの習熟などの重要性が今後さらに増していくことと思いますが、その指導医として基礎と臨床に通じる臨床検査専門医は適任なのではないかと考えております。一般に学生教育はあまり評価されない“負担”として敬遠されることが多いように思いますが、臨床検査専門医だからこそできる教育には興味深いものを感じますし、医学教育の中でこれまで以上に重要な役割を担うことができるのではないかと期待もしております。

臨床検査専門医としては、様々な形があり得ると思いますし、その多様性が特徴であるとも思います。私の場合は、内科医×血液内科医×臨床検査医＝？の自分なりの答えを模索しつつ、臨床検査専門医の一員として今後頑張っていこうと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

(東京慈恵会医科大学附属病院中央検査部　小笠原洋治)

臨床検査専門医になって

はじめまして、慶應義塾大学医学部臨床検査医学の上蓑義典と申します。平成 28 年度の試験で臨床検査専門医の資格をいただくことができました。

私は、平成 19 年に慶應義塾大学を卒業し、その後、東京タワーの麓にある東京都済生会中央病院というところで初期臨床研修、一般内科研修を行ったのち、3 年間、千葉県鴨川市の亀田総合病院で、臨床検査専門医の大先輩である細川直登先生のもと、感染症診療、感染制御、そして臨床微生物学を学びました。そして、母校に戻り、現在は、中央臨床検査部の主任医師として、微生物検査の運営、管理に関する企画

の業務を行いながら、並行して、感染制御センターという感染症診療・管理の部門にも所属し、感染症に関するコンサルテーションと感染制御にも関わっております。

今回、最初に臨床検査医学教室の村田満教授から、臨床検査専門医受験のお話をいただいたときには、さすがに自分の知識では難しいのではないかとかなり弱気な気持ちでした。ただ、専門医会のセミナーに参加し、その資料を繰り返し学んでいくなかで、そしてさまざまな部門の技師の方々に実際の検査手技や標本の見方を繰り返し教えていただく中で、少しずつ自信ができ、本番に臨むことができました。結果として資格をいただくこともできましたし、それ以上に、この受験を通じて臨床検査の基礎を学べたこと、さらに内科学の基本を見直すことができたことは非常に有意義であったと思います。

とはいえ、私自身は非常に不器用でいい加減な人間ですから、資格をいただいても、微生物検査の実務に関わっていくのは慶応病院の微生物検査にとって百害あって一利なしと思っています。ただ、これまで内科の臨床医や、感染症のコンサルタントをやってきた微生物検査結果のユーザーとしての目線を持つ人間として微生物検査の質の向上のためにできることはあるかと思い、そういったところで関わっていければと考えています。ですから現在は、できるだけ非専門医にもわかりやすいように検査報告書を見直したり、臨床上はあまり大きな意義をもたないにもかかわらず慣習的に行われてきた微生物検査のプロセスを削減したりといった作業を少しずつ進めているところです。

専門医は取得したものの、まだまだ検査の世界に入りたてで右も左もわからない私ですので、諸先輩方のご指導を受けながら一歩ずつ前へ進んでいくことができればと考えております。なにとぞよろしくお願い致します。

（慶應義塾大学医学部臨床検査医学助教　上蓑　義典）

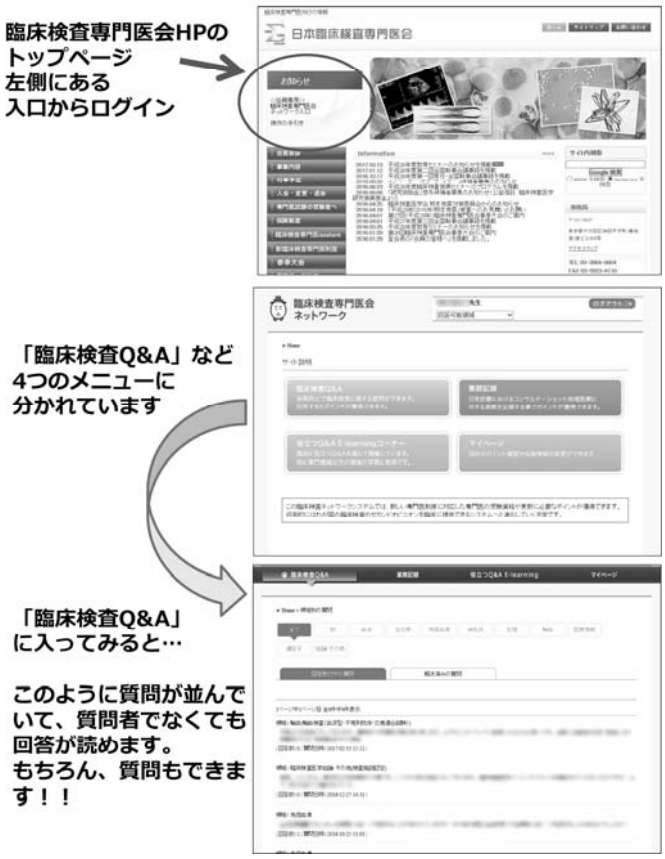
会員の皆様へ

広く「会員の声」を募集しております！
テーマは自由、文字数も自由です。
是非ともご意見をお寄せください。

【テーマの例】
・自己紹介や検査室のご紹介
・様々な技術・ご経験のご紹介

投稿方法：日本臨床検査専門医会事務局まで、メールにてお送りください。
E-mail: senmon-i@jaclp.org

臨床検査専門医会ネットワークの使い方



【編集後記】

春暖の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。巻頭言は教育研修委員会委員長の米川修先生に、「会員の声」には、川村眞智子先生、尾崎敬先生、小笠原洋治先生、上蓑義典先生にご寄稿いただきました。ご寄稿いただいた先生方に、心より厚く御礼を申し上げます。

今号では、臨床検査専門医会ネットワークをご紹介させていただきました。とても便利で役立つシステムなのですが、残念ながらアクセス数が増えておりません。ID やパスワードはお問い合わせも可能ですので、是非ご活用ください。

2017 年 4 月より、JACLaP NEWS の編集主幹を交代することになりました。2012 年からの 5 年間、多くの先生方にご寄稿、ご協力いただき、誠にありがとうございました。今後は WEB を中心に、臨床検査専門医の PR に取り組みたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

（編集主幹　東京大学医学部附属病院検査部　増田亜希子）

日本臨床検査専門医会
会　　長：登　　勉、副会長：東條尚子（渉外委員会委員長）、本田孝行
監　　事：高木　康、佐守友博
常任幹事：木村　聡（広報委員会委員長）、佐藤麻子（全国検査と健康展担当）、土屋達行（資格審査・会則改定委員会委員長）、古川泰司（保険点数委員会委員長）、三宅一徳（庶務・会計幹事）、宮﨑彩子（ネットワーク運営委員会委員長）、盛田俊介（情報・出版委員会委員長）、米川　修（教育研修委員会委員長）
全国幹事：浅井さとみ、五十嵐雅彦、上原由紀、大澤春彦、萱場広之、久川　聡、紀野修一、〆谷直人、長井　篤、中村文彦、橋口照人、日高　洋、増田亜希子、松下一之、村田哲也、柳原克紀、横崎典哉、和田隆志
情報・出版委員会：
委員長：盛田俊介
委　員：五十嵐岳、出居真由美、清水　力、信岡祐彦、福地邦彦、増田亜希子、吉田　博

日本臨床検査専門医会事務局
〒101-0027 東京都千代田区神田平河町 1 番地　第 3 東ビル 908 号
TEL：03-3864-0804　FAX：03-5823-4110　E-mail：senmon-i@jaclp.org